

平成18年度 事業報告書

財団法人日本ハンドボール協会

1. 普及指導に関する事業

1) 普及関係

(1) 少年チーム活性化推進ブロック会議

北信越	8月5日(土)	会場(長野)	九州	8月23日(土)	会場(山鹿)
北海道	9月2日(土)	会場(札幌)	関東	12月9日(土)	会場(守谷)
中国	1月27日(土)	会場(岡山)	東海	2月10日(日)	会場(四日市)
東北	2月24日(土)	会場(天童)	近畿	3月10日(土)	会場(田辺)

- ・ブロックの少年チームの現状について、各県小学生大会参加総チーム数 682 チーム (前年 458 チーム)
- ・少年チーム活性化の方策についての情報交換

(2) 小学生専門委員会

① 第1回小学生委員会 5月14日(日)事務局

- (1) 第20回全国小学生大会について
- (2) J級指導者講習会について
- (3) ブロック委員会の開催について
- (4) 各種調査について
- (5) (財)大崎スポーツ事業研究助成財団補助による事業展開について

② 第2回小学生専門委員会 7月27日(木)京田辺市

- ・小学生チームの実態について報告
- ・5月からの少年チーム実態調査の報告(説明資料有り)
- ・練習場所は屋外と屋内が半々であるが大会は屋内が多い
- ・J級指導者講習会について実施促進

(3) 中学生専門委員会

① 第1回中学生委員会 8月16日(水)高松オークラホテル

- ・各ブロック報告
- ・JOCジュニアオリンピックカップ第16回大会からは24チームで実施
- ・個人登録料の適応実施について

② 第2回中学生専門委員会 12月24日(日)堺市家原大池体育館

- ・健康管理について(ノロウイルス対策)
- ・指導方法について(暴力的な指導の排除)
- ・個人登録料—H20年度より実施、19年度中は情宣期間
- ・春の中学生大会開催について—スローガン、大会の歌等の公募中

(4) 小学生指導要領対策

① 文部科学省訪問 4月28日(金)文部科学省スポーツ・青少年局

② 第1回学校体育検討専門委員会 4月29日(土)事務局

- ・第9回研究集会実施案検討
- ・委託校選定について 第IV期(平成18年度・19年度)5校

③ 小委員会(打ち合わせ) 8月9日(水)岡山市

④ 第8回研究集会 8月10日(木)、11日(金)岡山市

- ・授業発表
- ・実技研修と講義

(5) ビーチハンドボール専門委員会

- ① 第8回全日本ビーチハンドボール大会 4月29日(土)
千葉県 男子3チーム、女子2チーム
審判講習会、指導
- ② 第10回スプリングカップ、サマーカップ大会
- ③ 第1回学生大会 8月24日(木)、25日(金)
- ③ ビーチ委員会開催
4月、8月、11月、1月

(6) マスターズ専門委員会

- ① 第14回全国ハンドボールマスターズ大会 8月11日(金)～13日(日)豊橋市
男子38チーム、女子11チーム(台湾女子チーム初参加)

(7) 女性委員会

- 世界女性スポーツ会議 5月11日(木)～14日(日)参加

2) 指導関係

指導委員会

- ① スポーツ指導員養成 各県 宮城、山形、千葉、群馬、東京、福井、静岡、京都、
大阪、鳥取、島根、山口、徳島、高知、福岡
- ② 中央委員会 1月28日(日)事務局
 - ・平成18年度競技別講師全国研修会について
 - ・平成18年度U-12指導指針について
 - ・U-19までの一貫指導指針について
 - ・大学における専門教科免除について
- ③ 全国競技別講師研修会 1月5日(金)～9日(火)コーチレフェリーシンポジウム
- ④ J級講習会、 千葉、愛知

3) 競技者育成技術委員会

- (1) 第1回競技者育成技術委員会 6月18日(日)東京女子体育大学
各委員会報告
- (2) 第2回競技者育成技術委員会 8月26日(土)広島東区スポーツセンター
 - ① 選手の選考について
センタートレーニング参加については原則としてブロックを通して推薦する
 - ② アジア競技大会へのメンバー決定は9月上旬には決定、委員長一任
 - ③ 大学機関における公認指導員認定のための講座開設について
 - ④ 各委員会提案・報告
 - ・ヤングレフェリー養成、NTSとの連携などのため審査員とトップレフェリーをブロックトレーニングに参加させる。
 - ・大学の履修科目による公認指導者認定講習受講免除規定について
- (3) 第3回競技者育成技術委員会 1月8日(月)中部大学

① N T S のあり方について

発掘、育成を考えた強化の面、指導法の一貫性を広め

指導者の育成をもねらった指導、普及の面、加えて審判養成の面

② 指導委員会より

・ 競技別講師講習会の実施はセンタートレーニングに平行して実施し、効果を挙げた
今後もこの様に N T S を活用した研修会の実施を企画したい。

・ 大学機関における公認指導員認定講座開設は、新年度よりハンドボール、ソフトボ
ールの二つに許可が下りている。

③ 審判部

・ ヤングレフェリー養成、N T S との連携などのため審査員とトップレフェリーをブロッ
クトレーニングに参加させるなどの事業を確実に進める

④ 強化委員会より

・ 各カテゴリーの強化指定選手を補充する場合、N T S センタートレーニング参加者の
中から入れることを原則とする。

・ 選考基準はいろいろな場で明確に説明する

2. 競技運営に関する事業

1) 主要大会の管理・運営 (斜体は国際大会)

月	大会名	開催日程	開催地	結 果
4 月	第3回東アジアクラブ選手 権(男女)	4/14-16	日本・京都	男子:1: KOROSA 2:大同特殊鋼 3:大崎電気 4:北京 女子:1: オムロン 2:大邱市庁 3:北京 4:広島メイプル
	第8回全日本ビーチハンド ボール選手権大会	4/29	富浦町原岡海岸	男子:1:あふたへず 2:海上自衛隊横須賀 A 女子:1:あぶらおおめ 2:愛媛みかん
5 月	西日本学生選手権大会	5/24-28	きびエリア+他	男子:1:大体大 2:東和大 3:関西大、大経大 女子:1:大教大 2:福教大 3:武庫川、大体大
6 月	第2回男子ユースアジ ア選手権(WC2007予選)	6/25-30	イラン・テヘラン	1:イラン 2:カタール 3:韓国 4:日本
7 月	第18回男子第6回女子 世界学生選手権	7/1-9	ポーランド・クダニスク	男子:1:ロシア 2:グルジア 3:ベラルーシ 5:日本 女子:1:ポーランド 2:ハンガリー 3:リトアニア 4:日本
	第11回女子アジア選手権 (WC2007予選)	7/1-5	中国・広州	1:韓国 2:中国 3:日本 4:オーストラリア
	第26回全国クラブ選手権 大会・西地区	7/14-16	岐阜アリーナ	男子:1:MHC 2:下松ク 3:SOCIO OSAKA 4:東海学連ク 女子:1:コスモビッキーズ 2:GET'S 3:大阪教員 4:徳山ク
	高松宮記念杯第47回全 日本実業団選手権大会	7/26-30	佐賀県総合体育 館他	男子:1:大同特殊鋼 2:大崎電気 3:湧永製菓 女子:1:オムロン 2:ソニーコミュニケーション九州 3:北國銀行
	第26回全国クラブ選手権 大会・東地区	7/28-30	本宮町総合体育 館他	男子:1:渡辺組 2:BG21 3:桜門ク、蓮田ク 女子:1:SAKURAク 2:オレンジク 3:釧路ク、筑波学園ク

	第19回全国小学生大会	7/28-30	京田辺市中央体育館他	男子:1;玉名小 2;下郡 HB 少 3;木田フル 女子:1;上庄 HB ク 2;玉名小 3;LITTLE GUTS
8 月	高松宮記念杯第57回全日本高等学校選手権大会	8/2-7	堺市家原大池体育館他	男子:1;興南 2;藤代紫水 3;浦和学院、大分国際情報 女子:1;洛北 2;高岡向陵 3;四天王寺、桜花学園
	第33回全国高等専門学校選手権大会	8/5,6	グリーンアリーナ神戸	1;米子高専 2;豊田高専 3;高松高専、大阪府立高専
	第11回男子ジャパンオープンメント	8/9-12	湯沢市総合体育館他	1;HC 岡山 2;大同ク 3;HC 秋田
	第11回女子ジャパンオープンメント	8/9-11	大仙市大曲体育館他	1;HC 岡山 2;シャトレセハンドホーク 3;香川銀行 T.H.
	第14回全日本マスターズ大会	8/11-13	豊橋市総合体育館他	男子:1;WAKUNAGA 2;NISSHINN 3;下松ク 女子:1;富士エンジェルズ 2;風見鶏 3;にこにこ GUTS
	第1回女子ユース世界選手権	8/11-20	カナダ・シャブロット	1;デンマーク 2;韓国 3;ルーマニア 4;フランス(日本は7位)
	東日本男子学生選手権大会	8/16-18	柏崎市総合体育館他	男子:A;函館大 B;富士大 C;秋田大 D;順天堂大 女子:a;東北福祉大 b;早稲田
	第35回全国中学校大会	8/18-20	高松市総合体育館他	男子:1; 神森中 2;氷見北部中 3;けやき台中、松園中 女子:1;東久留米西中 2;下津井 3;倍良中、香東中
	第14回日韓中ジュニア交流競技大会	8/25-27	韓国・大邱広域市	男子:1;大邱 2;韓国 3;日本 4;中国 女子:1;韓国 2;大邱 3;中国 4;四国
	第10回日韓スポーツ交流(派遣/男子)	8/28-9/3	韓国・鎮川	
	第11回ヒロシマ国際兼第10回男子ジュニアアジア選手権(WC2007予選)	8/22-31	日本・広島市	1;クェート 2;韓国 3;サシニア 4;中国(日本は5位)
	9 月	第31回日本リーグ	9/2-3/4	各地
第10回日韓スポーツ交流		9/13-18	韓国・ソウル	女子/派遣
第10回日韓スポーツ交流		9/22-27	石川県・小松市	女子/受入
10 月	第61回国民体育大会	10/6-10	兵庫県・朝来市、養父市、三田市、高砂市、加古川市	成年男子:1;埼玉県 2;広島県 3;愛知県 4;佐賀県 成年女子:1;鹿児島県 2;石川県 3;熊本県 4;岡山県 少年男子:1;神奈川県 2;兵庫県 3;京都府 4;岐阜県 少年女子:1;富山県 2;京都府 3;兵庫県 4;宮崎県
11 月	ジャパンカップ 2006	11/10-12	大阪・住吉区スポーツセンター	男子:1;日本 2;JHL 選抜 3;韓国 4;中国 女子:1;日本 2;中国 3;JHL 選抜 4;韓国
	高松宮記念杯男子第48回女子第41回全日本学生選手権大会	11/16-20	中村スポーツセンター他	男子:1;日体大 2;早稲田大 3;日本大、大体大 女子:1;筑波大 2;東女体大 3;大教大、茨城大

12月	第15回アジア競技大会	12/1-15	カタール・ドール	男子:1;クウェート 2;カタール 3;イラン 4;韓国(日本は6位) 女子:1;韓国 2;カザフスタン 3;日本 4;中国
	第58回全日本総合選手権大会	12/20-24	愛知県体育館他	男子:1;大同特殊鋼 2;大崎電気 3;トヨタ紡織九州、トヨタ車体 女子:1;オムロン 2;ソニーセミコンダクタ九州 3;北國銀行、広島メイプルレッズ
	第15回JOCジュニアオリンピックカップ	12/24-27	大阪府堺市家原大池体育館他	男子:1;沖縄県 2;愛知県 3;茨城県、大阪府 女子:1;岡山県 2;熊本県 3;愛知県、大分県
1月	第20回男子世界選手権	1/21-2/4	ドイツ・ケルン他	1;ドイツ 2;ポーランド 3;デンマーク 4;フランス(日本は不出場)
2月	全日本実業団チャレンジ2007	2/9-11	高知市東部総合運動場他	1;金沢市役所 2;高知クラブ 3;八光自動車工業 4;セントラル自動車
3月	第31回日本リーグプレーオフ	3/17-18	駒沢体育館	男子:1;大同 2;湧永 3;大崎 4;トヨタ車体 女子:1;オムロン 2;広島メイプルレッズ 3;ソニーセミコンダクタ九州
	第30回全国高等学校選抜大会	3/25-30	徳島市立体育館他	男子:1;藤代紫水 2;北陸 3;岡崎城西、岩国工業 女子:1;洛北 2;文大杉並 3;横浜南陵、高松商業
	第2回春の全国中学生選手権大会	3/26-29	氷見市ふれあいスポーツセンター他	男子:1;吉川中央 2;郡山一 3;小島、倉敷東 女子:1;東久留米西 2;三郷北 3;神森、小松南部

2) その他の事業

- ・ 平成18年度チーム・選手・チーム役員登録業務
- ・ 競技運営連絡協議会の開催(東京)
- ・ 国民体育大会運営の簡素化・効率化への取り組み
- ・ 国民体育大会正規視察(岐阜県)
- ・ 競技用具(ボール・ゴール・ゴールネット)検定業者のヒアリング
- ・ 2016年オリンピック招致会場視察(東京・福岡)
- ・ 男子アジアジュニア選手権大会運営

3. 国際に関する事業

1) 日本ナショナルチーム国際大会に関する事業

日程	カテゴリー	大会名称	開催地
4月	男女	第3回東アジアクラブ選手権	日本(京都)
	審判員	第3回東アジアクラブ選手権 (浜田・小笠原)(佐路・佐藤)	日本(京都)
5月	女子N	デンマーク合宿	デンマーク
	審判員	AHFレフェリーコース (池淵・檜崎)	中国
6月	男子U-23	フランス合宿	フランス

	女子 U-23	ハンガリー・ポーランド合宿	ハンガリー・ポーランド
	男子 U-19	男子ユースアジア選手権	イラン(テヘラン)
	審判員	グローバル・レフェリー・トレーニング (池淵・檜崎)	スペイン
7月	女子 N	第 11 回女子アジア選手権	中国(広州)
	男子 U-23	第 18 回世界学生選手権	ポーランド(グダニスク)
	女子 U-23	第 6 回世界学生選手権	ポーランド(グダニスク)
	審判員	世界学生選手権 (仲田・植村)	ポーランド(グダニスク)
	男子 U-21	パルティレ・カップ	スウェーデン
	男子 U-21	ドローニング・カップ	デンマーク
8月	女子 U-18	第 1 回女子ユース世界選手権	カナダ(シャープブルック)
	審判員	第 1 回女子ユース世界選手権 (池淵・檜崎)	カナダ(シャープブルック)
	男子 U-16	第 10 回日韓スポーツ交流	韓国(ソウル)
	男子 U-21	ヒロシマ国際大会 兼 第 10 回男子ジュニア・アジア選手権	日本(広島)
	審判員	第 10 回男子ジュニア・アジア選手権 (家永・福島)	日本(広島)
9月	女子 U-16	第 10 回日韓スポーツ交流	韓国(ソウル)
	女子 U-16	第 10 回日韓スポーツ交流	日本(小松市)
11月	男子 N	ジャパンカップ 2006	日本(大阪市)
	女子 N	ジャパンカップ 2006	日本(大阪市)
	男子 N	クロアチア合宿	クロアチア(ザグレブ)
12月	男子 N	第 15 回アジア競技大会	カタール(ドーハ)
	女子 N	第 15 回アジア競技大会	カタール(ドーハ)
	審判員	第 15 回アジア競技大会 (浜田・小笠原)	カタール(ドーハ)
2月	女子 U-20	インダストリアル・カップ	チェコ(プラハ)

2) 国際会議に関する事業

(1) IHF 関係

1月 IHF 理事会(ドイツ) 渡邊会長・西山逸成

*IHF に関する連絡

*審判登録・派遣・レフェリーコースに関する連絡

*IHF ニュース翻訳

(2) AHF 関係

12月 AHF 理事会(カタール) 渡邊会長

*AHF に関する連絡

* 審判登録・派遣・レフェリーコースに関する連絡

* AHF 会議議題・議事録の翻訳

(3) EAHF 関係

11 月 EAHF 会議(日本・大阪)

* EAHF に関する連絡

3) その他の事業

(1) 国際移籍等に関する連絡(移動証明書の発行など)

田中 麻美 ドイツ移籍案件の補助

谷口 尚代 ドイツ移籍案件の補助

浅井 友可里 ドイツ移籍案件の補助

金城 晶子 ドイツ移籍案件の補助

ベルト・パウワー 外国人コーチ租税条約

イビツァ・リマニッチ 外国人コーチ租税条約

(2) 翻訳業務

大会要綱の翻訳

海外大会情報の翻訳及び掲示

4. 競技規則(審判)に関する事業

1) 平成 18 年度登録公認審判員数 2,617 名(前年度マイナス 77 名)

終身 116 名、国際 12 名、A 級 278 名、B 級 518 名、C 級 679 名、D 級 1,014 名
(減少は D 級 100 名が最大の理由)

2) 公認審判員上級審査結果

◇ A 級審査は、全国クラブ選手権東地区をモデルに、B 級は北地区(福島)・東地区(東京)・
中地区(京都)・西地区(大分)の 5 地区にて実施。結果は下記の通り。

	A 級	B 級
審査申請者	15 名	54 名
書類不備者	0 名	2 名
欠席者	3 名	8 名
筆記不合格者	0 名	12 名
実技不合格者	2 名	9 名
体力不合格者	0 名	—
合格者数	10 名	25 名

B 級筆記不合格者と実技不合格者は重複している

◇ レフェリーコース受験状況

前期 期日 8 月 14 日(月)~16 日(水)

モデル 長浜ドリーム大会 高校チーム男女 45 チーム

場所 滋賀県 長浜市

担当者 川島克之、越田義昭、岸本光夫

後期 期 日 3月23日(金)～25日(日)
 モデル 関東学生男子1部チーム強化試合
 場 所 日本体育大学健志台体育館(横浜市青葉区)
 担当者 川島克之、越田義昭、

結果は下記の通り。

申請者数	5名
欠席者数	3名
B級認定者	2名
C級認定者	0名

◇実業団レフェリーコース受験状況

期 日 2月9日(金)高知県にて実施
 モデル 実業団チャレンジカップ

結果は下記の通り。

申請者数	2名
欠席者数	0名
B級認定者	2名
C級認定者	0名

3) 講習会・研修会及び審判員評価

◇講習会

対象者 日本リーグ担当レフェリー・一般希望者

内 容 日本リーグ審判員の目標の説明

体力テスト(クーパー走)

- ・北海道地区日本リーグ講習会 未開催
- ・北信越地区 〃 平成18年2月17日(土) 福井市
- ・東北地区 〃 平成18年3月5日(日) 花巻市
- ・近畿地区 〃 平成18年3月11日(土) 田辺市
- ・関東地区 〃 平成18年3月12日(日) 北足立郡
- ・四国地区 〃 平成18年3月29日(水) 松山市
- ・九州地区 〃 平成18年6月24日(土)25日(日)山鹿市
- ・東海地区 〃 平成18年7月8日(土) 半田市

◇トップレフェリー研修会

期 日 平成18年11月11日(土)、12日(日)

会 場 大阪府泉佐野市中庄915-1 ホテルニューユタカ会議室

対 象 平成18年度全国大会担当レフェリー・日本リーグ担当レフェリー・コーチ

参加者 審判審査指導専門委員を含め73名参加

モデル ジャパンカップ2006

内 容 座学 ・越田審査委員による判定の問題点
 ・岸本審査委員による新ルールの解説
 ・中島YRP担当によるYRPの進め方の説明

実技 国際大会レフェリーチェック

◇審判員評価

- ・全国高等学校総合選手権大会参加審判員評価（大阪市） 審判審査指導専門委員 3名派遣
- ・全日本総合選手権大会審判員評価（名古屋市） 審判審査指導専門委員 6名派遣
- ・国民体育大会と選抜大会のマッチバイザーに審判審査指導専門委員を配置できたので審判員の評価対象を増やすことができた。

4) 会 議

・審判審査指導専門委員会

期 日 10月22日(土)、23日(日)
場 所 東京都品川区五反田 東興ホテル
内 容 A・B級受験状況及び審査結果の検討
レフェリーコース前期の受験状況報告
総合選手権大会審判員のノミネート
若手審判員の教育内容検討

期 日 12月21日(木)～23日(土)
場 所 名古屋市
内 容 ①審判指導法
②審判指導 DVD の利用方法
③新ルールのポイント
④ヤングレフェリープロジェクト（YRP）の具体的内容の検討

期 日 平成19年1月26日(金)
場 所 国立スポーツ科学センター
平成19年度A・B級受験申請書類審査
YRPの要項作成
審判部合同会議準備

・審判部合同会議

期 日 1月27日(土)・28日(日)
場 所 国立スポーツ科学センター
参加者 審判部長・競技運営部長・審判審査指導専門委員・各ブロック審判部長・各連盟審判部長・競技規則研究専門委員長・審判国際専門委員長・日本リーグ審判部長・審判総務専門委員長及び審判総務専門委員
内 容 ・平成18年度諸活動の総括
・平成19年度活動の検討
・競技規則改正点の解説
・審判部運営上の問題検討
・IHF作成のDVDの具体的な利用方法

5) 審判員の登録と海外派遣実績

- ・ IHF 登録審判員
- ・ AHF 登録審判員
- ・ YRP 登録

浜田浩和・小笠原久郎
仲田 稔・植村 彰
家永昌樹・福島亮一
(武智誠治・松原誠起)

藤井俊朗・大熨嘉彦
永春文義・安田 寛

永春文義・安田 寛
池淵智一・檜崎 潔

池淵智一・檜崎 潔は18年度にIHFレフェリーに認定された

・公式国際試合及び海外派遣

・第3回東アジアハンドボールクラブ選手権

期 日 4月7日(金)～11日(火)

場 所 京都

派遣審判 浜田浩和・小笠原久郎 佐路清隆・佐藤晃 (日本協会指名)

・AHFレフェリーコース

期 日 5月23日(火)～31日(水)

場 所 中国

派遣審判 池淵智一・檜崎 潔 (AHF指名)
(大陸レフェリーとして認定される)

・グローバルレフェリートレーニングコース

期 日 6月28日(水)～7月1日(土)

場 所 スペイン

派遣審判 池淵智一・檜崎 潔 (IHF指名)
(IHFレフェリーとして認定される)

・世界学生選手権

期 日 7月1日(土)～8日(土)

場 所 ポーランド

派遣審判 仲田 稔・植村 彰 (日本協会指名)

・女子ユース世界選手権

期 日 8月11日(金)～20日(日)

場 所 カナダ

派遣審判 池淵智一・檜崎 潔 (IHF指名)

・男子ジュニア・アジア選手権大会

期 日 8月22日(火)～31日(木)

場 所 広島

派遣審判 家永昌樹・福島亮一 (AHF指名)

・アジア競技大会

期 日 12月3日(日)～14日(木)

場 所 カタール

派遣審判 浜田浩和・小笠原久郎 (AHF指名)

6) その他

平成18年度審判員の目標

- ① ディフェンスプレイヤーの守備機会の保証

- ② アドバンテージルールの順守
- ③ コート上での動きと位置取り

研究課題

- ① オフェンスプレイヤーの評価 (チャージング・オーバーステップ等)
- ② パッシブプレーの予告合図のタイミングと違反を判定するタイミング
- ③ 許される行為と許されない行為の判定について (ルールブック第8条)

5. 競技力向上 (強化) に関する事業

1) 国際大会・国際交流親善試合

チーム名	大会名	日程	場所	結果
男子 U-19	男子ユースアジア選手権(WC2007 予選)	6/25-30	イラン・テヘラン	1;イラン 2;カタール 3;韓国 4;日本
女子 N	第 11 回女子アジア選手権(WC2007 予選)	7/1-5	中国・広州	1;韓国 2;中国 3;日本 4;カザフスタン WC 出場権獲得
男子 U-23	第 18 回世界学生選手権	7/1-9	ポーランド・グダニスク	1;ロシア 2;グルジア 3;ベラルーシ 4;チェコ 5;日本 6;ラトヴィア 7;ハンガリー 8;トルコ 9;ポーランド 10;セルビアモンテネグロ 11;ウクライナ 12;クロアチア 13;中国
女子 U-23	第 6 回世界学生選手権	7/1-9	ポーランド・グダニスク	1;ポーランド 2;ハンガリー 3;リトアニア 4;日本 5;チェコ 6;チャイニーズタイペイ 7;セルビアモンテネグロ
男子 U-21	パルティレカップ	7/3-9	スウェーデン	優勝
男子 U-21	ドロンニグカップ	7/10-16	デンマーク	優勝
女子 U-18	第 1 回女子ユース世界選手権	8/11-20	カナダ・シャブレルック	1;デンマーク 2;韓国 3;ルーマニア 4;フランス 5;スロベニア 6;アルゼンチン 7;日本 8;タイ 9;ブラジル 10;カタダ
男子 U-16	第 10 回日韓スポーツ交流(派遣/男子)	8/20-26	韓国・ソウル	
男子 U-21	第 11 回ヒロシマ国際兼第 10 回男子ジュニアアジア選手権(WC2007 予選)	8/22-31	日本・広島市	1;クウェート 2;韓国 3;サウジアラビア 4;中国 5;日本 6;イラン 7;カタール 8;インド 9;チャイニーズタイペイ 10;マカオ
女子 U-16	第 10 回日韓スポーツ交流(派遣/女子)	9/13-18	韓国・ソウル	
女子 U-16	第 10 回日韓スポーツ交流(受入/女子)	9/22-27	石川県・小松市	
男子 N	ジャパンカップ 2006	11/10-12	大阪市(JOC パートナー都市)	1;日本 2;JHL 選抜 3;韓国
女子 N	ジャパンカップ 2006	11/10-12	大阪市(JOC パートナー都市)	1;日本 2;中国 3;JHL 選抜
男子 N	第 15 回アジア競技大会	12/3-14	カタール・ドーハ	1;クウェート 2;カタール 3;イラン 4;韓国 5;シリア 6;日本 7;パレーン 8;サウジアラビア 9;レバノン

				10;UAE 11;中国 12;インド 13;香港 14;ウズベキスタン 15;マ カオ
女子 N	第 15 回アジア競技大 会	12/3-14	カタール・ドー ハ	1;韓国 2;カザフスタン 3;日本 4; 中国 5;タイ 6;ウズベキスタン 7;チ ャイニーズタイペイ 8;インド

2) 海外強化合宿

チーム名	事業名	日 程	場 所	参加人数計(役員、選手)
女子 N	欧州遠征	5/9-25	デンマーク	22名(役員3名、選手19名)
男子 U-23	欧州遠征	6/21-28	フランス	22名(役員6名、選手16名)
女子 U-23	欧州遠征	6/22-30	ハンガリー・ポーランド	22名(役員3名、選手19名)
男子 U-21	欧州遠征	7/4-17	スウェーデン・デンマーク	21名(役員3名、選手18名)
男子 N	欧州遠征	11/13-29	クアアア	22名(役員4名、選手18名)
女子 U-20	インダストリアルカップ	2/25-3/5	チェコ・プラハ	20名(役員4名、選手16名)

3) 国内強化合宿 (男女ナショナル)

チーム名	場 所	日 程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子 N	第 1 回大崎電気工業	5/9-19	26名(役員3名選手23名)		赤尾和彦
	第 2 回北陸電力	6/4-14	24名(役員3名選手21名)		赤尾和彦
	第 3 回北海道紋別市	6/29-7/6	21名(役員3名選手18名)		赤尾和彦
	第 4 回秋田湯沢	8/1-8	21名(役員3名選手18名)		田村耕一郎
	第 5 回トヨタ車体	9/3-6	22名(役員3名選手19名)		赤尾和彦
	第 6 回湧永記念館	9/10-13	22名(役員3名選手19名)		大城一樹
	第 7 回舞洲アリーナ	11/7-9	19名(役員3名選手16名)		赤尾和彦
	第 8 回トヨタ車体	1/15-26	24名(役員3名選手21名)		赤尾和彦
女子 N	第 1 回東女体大	6/17-28	21名(役員4名選手17名)		倉田忠司
	第 2 回北海道紋別市	7/31-8/5	23名(役員4名選手19名)		倉田忠司
	第 3 回舞洲アリーナ	11/6-9	18名(役員4名選手14名)	佐久間克彦	倉田忠司
	第 4 回大崎電気工業	11/22-25	18名(役員2名選手16名)		倉田忠司

4) 国内強化合宿 (男女ジュニア)

チーム名	場 所	日 程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子 U-19	大同特殊鋼星崎体育館 大同工業大学体育館	5/16-19			河野公昭
男子 U-23	北陸電力福井体育館	6/5-11	19名(役員3名選手16名)		永井正之
男子 U-21	北陸電力福井体育館	6/5-11	22名(役員4名選手18名)		尾中祐二
女子 U-23	東京女子体育大学	6/17-21	17名(役員4名選手13名)		高野内俊也
男子 U-19	大阪体育大学	6/20-22	21名(役員5名選手16名)		河野公昭
女子 U-18	オムロン鹿陽センター	6/23-28	18名(役員2名選手16名)		木下功次
女子 U-18	北國銀行スポーツセンター	7/9-13	18名(役員2名選手16名)		木下功次
男子 U-21	日本体育大学	8/13-20	20名(役員4名選手16名)		尾中祐二
女子 U-20	大崎電気工業	11/23-26	24名(役員4名選手20名)		

5) ドクター・トレーナー帯同 (遠征・大会)

チーム	遠征・大会名	日程	場所	ドクター	トレーナー
男子 U-23	欧州遠征	6/21-28	フランス	沖本信和	永井正之
女子 U-23	欧州遠征	6/22-30	ハンガリー	沖本信和	高野内俊也
男子 U-19	第 2 回男子ユースアジア選手権	6/25-30	イラン	有田 忍	河野公昭
女子 N	第 11 回女子アジア選手権	6/29-7/6	中国	佐久間克彦	倉田忠司
男子 U-23	世界学生選手権	7/1-9	ポーランド	沖本信和	永井正之
女子 U-23	世界学生選手権	7/1-9	ポーランド	沖本信和	高野内俊也
男子 U-21	パルティレカップ	7/3-9			
男子 U-21	ドローニングカップ	7/10-16			
女子 U-18	第 1 回女子ユース世界選手権	8/11-20		宮本和彦	木下幸司
男子 U-16	第 10 回日韓スポーツ交流	8/20-26			飯田純一郎
男子 U-21	第 10 回男子ジュニアアジア選手権	8/20-31	広島	有田 忍	尾中祐二
女子 U-16	第 10 回日韓スポーツ交流(派遣)	9/13-18	韓国		谷口功次
女子 U-16	第 10 回日韓スポーツ交流(受入)	9/22-27	石川県		谷口功次
男子 N	欧州遠征	11/13-29	クロアチア		赤尾和彦
女子 U-20	インダストリアルカップ	2/25-3/5	チェコ		大城一樹

6) NTS (ナショナルトレーニングシステム)

- ・ブロックトレーニング (9 ブロック) の実施
小・中・高それぞれ男女 15 名 + α 約 1,000 名
- ・センタートレーニングの実施 (JHL ウィンタートレーニングとして拡大実施)
中・高男女ブロック推薦各 50 名をナショナルスタッフで書類審査を実施し
各 30 名程度を中心に、U16、U19 代表選手の選考を行った。

7) JOCジュニアオリンピックカップ大会

男子優勝：沖縄県選抜 女子優勝：岡山県選抜

- ・オリンピック有望選手の選考
男子 瀬田 舜介 (大阪府豊中十五中学校)
女子 安倍 千夏 (岩手県松園中学校)
 角南 涼 (岡山県下津井中学校)

8) 日本代表チーム

- ・女子代表アジア選手権第 3 位：世界選手権出場権獲得
- ・女子アジア選手権が広州で開催された。カザフスタンに勝利し、中国に僅差で敗れ、韓国には、現状力の差があった。第 3 位となり、世界選手権出場権を獲得した。
- ・アジア大会女子日本代表銅メダル獲得・男子代表第 6 位
- ・釜山アジア大会では、男女ともに 4 位であってメダル獲得ができなかった。
今回は、カタール：ドーハ：中東ではじめて開催される大会であった。女子は、準決勝で惜しくもカザフスタンに敗れたが、3 位決定戦でここ数年来勝てなかった中国を破り 8 年ぶりの銅メダルを獲得した。
男子は、予選リーグのサウジアラビア戦敗戦が尾を引き、次のラウンドでバーレーンに勝ったが、クウェートに破れ、韓国に引き分けたものの、得失点差で準決勝に進出できず、

5-6 位決定戦でシリアに破れて 6 位と結果としては振るわなかった。

- ・ジャパンカップ 2006 において、男女ともに優勝

9) u n d e r 代表チーム

- ・ U23 代表が世界学生選手権（ポーランド）男子第 5 位、女子第 4 位
男女ともに、メダルが十分に狙える状況であった。予選リーグも順調に勝ちあがっていたが最終的な場面でもう一息であった。しかし、男女ともに良い成績であった。
- ・ 男子ジュニアアジア選手権（広島）第 5 位
20 歳以下のジュニア世代のアジア選手権を日本で開催し念願であったジュニア世界選手権出場を期待した。しかし、予選リーグで中国に惜敗し、準決勝に進めなかった。
- ・ 女子ユース代表世界選手権出場（カナダ）第 7 位
女子ユース日本代表が、第 1 回女子ユース世界選手権(カナダ)に出場し、予選リーグ 2 勝 3 敗で 4 位、順位決定戦でタイに勝利し第 7 位と健闘した。
- ・ 男子ユース代表アジア選手権出場（イラン）第 4 位
日本・韓国・イラン・カタールの 4 カ国出場であった。結果は僅差の 3 敗であった。

10) 分析活動

2005 年の第 19 回男子世界選手権及び第 17 回女子世界選手権大会におけるゲーム分析を行った結果を、分析レポートとして取りまとめた。国立スポーツ科学センターとの共同によって分析活動が実現。予算についても、大きな支援をいただいた。

11) ドーピング活動

日本リーグプレーオフ・全日本学生選手権・国体において、ドーピングコントロール実施。検体数 16。

6. 機関誌発行に関する事業

1) 年 10 回の発行を行った。

1 ヶ月発行部数 3,800 部
(年 3 回登録中学校へ無料配布 約 1,100 部)
(年 1 回登録小学校へ無料配布 約 230 部)

2) 広告協賛 13 社

3) インターネット情報との連携を図り記事とした。

4) 機関誌の内容を検討した。

- | | |
|------------|----------------------------|
| ①協会基本方針の掲載 | ②理事会、評議員会、常務理事会、委員会報告 |
| ③各連盟便り | ④強化部門情報の掲載(N T S、ナショナル合宿等) |
| ⑤国際情報の掲載 | ⑥各大会結果報告 |
| ⑦企画記事を増やした | ⑧がんばれ 10 万人会情報 |
| ⑨技術分析記事 | |

7. 企画・広報に関する事業

1) 企画

- ①中期スケジュールに基づく、ナショナル強化・普及・国際行事等の調整を行った。
- ②日本リーグとの連携により、各種（GM、監督、JHL開催地責任者会議）研修会を行った。
- ③北京オリンピックに向けた具体的な行動を実施。
 - a. 東アジアクラブ選手権(京都)の運営、ジャパンカップ 2006(大阪)の開催・運営
 - b. 北京オリンピック豊田予選への応援横断幕を作成
 - c. 北京オリンピック豊田事務局の立ち上げ

2) 広報

- ①広報年間スケジュールに基づき活動を行った。
 - ・ 定期記者発表（日本リーグ、日本リーグプレーオフ）
 - ・ 臨時記者発表（男子新監督就任）
 - ・ プレスリリース 19回(新監督内定、ナショナル合宿、各カテゴリー国際大会、国内大会他)
 - ・ ナショナルチームの情報公開
- ②インターネット発信(ホームページ)の充実を図った。
- ③マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ライター他）の取材調整を行った。103件
- ④東京記者クラブハンドボール分科会との打合せ連絡会を行い、意見交換を行った。

3) インターネット

- ①日本協会ホームページの充実を図った。
 - ・ 日本協会の情報公開項目を増やした（規程、業務・財務資料など）。
 - ・ 情報発信のスピード化を推進した（大会結果速報用に掲示板を利用した）。
 - ・ 大会結果速報のために、大会特派員制度を検討した。
 - ・ ホームページ充実の体制作り（システム、人材、外注化）を検討した。
 - ・ 内容充実のためのサーバー容量追加を検討した。
 - ・ ブロック大会のページを作成し、地方協会発信ページとの大会リンクに務めた。
 - ・ 携帯サイト発信の検討を行った。
- ②コンテンツ作成の効率化を図った。
- ③HP訪問数が継続的にアップしている。

8. 財務・会計に関する事業

平成 18 年度は、平成 17 年度に引き続き財政状況を取り巻く環境が経済的にも社会的にも

厳しい状況にあり、縮小均衡を前提に緊縮財政を組まなければならない状態であった。特に支出面において、効率の良い運営を推進する方針で臨んだ。

収入面では、マーケティング事業が一部努力目標としての計画であったことの影響もあったが、賛助金収入、寄付金などが若干増収を見た。このことと、日本リーグからの繰入金収入で収入合計が予算より上回った。

支出面では、一次、二次補正でマーケティング収入を漸次下方修正したことで、当期収支差額がマイナス 4,000 万円になることが見込まれ、各事業部に対し予算執行状況を示し、各事業の見直し、さらに効率的な実施を依頼した。その結果と JOC 補助金等や強化特別事業の効率的運用により一般会計からの繰入額が減り、一般会計の当期収支差額をマイナス 1,000 万円台まで抑制することが出来た。

従って、次年度繰越金が 6,000 万円足らずとなり、事なきを得た。

9. 日本リーグに関する事業

1) 日本リーグ「プロの運営」を目指し始動した。

- ・ゼネラルマネジャー（GM）をチームに設置し、2回のGM会、研修会を行い意見交換・育成を図った。
- ・オープニングゲームを集中開催として第31回大会のスタートとした。
- ・ファンサービスに積極的に取り組み、大会運営の向上を図った。
（サイン会・撮影会・セレモニー・ハーフタイムイベント）
- ・開催県協会との連携強化とリーグ戦運営力向上を図る事を目的とした、開催地責任者会議を行った。
- ・プレーオフ会場入場料金のアップ（アリーナエリア指定券発行）

2) 組織基盤の強化に取り組んだ。

- ・企業・地域市民・地域行政が三位一体となったリーグ運営。
- ・リーグ所属チーム選手のハンドボールクリニック。
- ・地位自治体とのタイアップ。

3) 広報活動の強化

- ・リーグレギュラーシーズン前、プレーオフ前記者発表会の質の向上を図った。
（各チーム監督・有望選手の出席）
- ・記者発表後、チーム監督、選手、機構役員等によるマスコミ懇親会を行った。
- ・マスコミ各社への試合速報の配布。
- ・プレーオフテレビ中継局を増やした。
- ・人気選手のマスコミへの登場回数を増やしていった。

4) 観客動員を最優先に取り組み、成果を上げた。

- ・レギュラーシーズン観客動員数のアップ。

- ・プレーオフの最多入場者数の更新。

5) リーグ活性化事業に取り組んだ。

- ・チャレンジリーグを開催した（女子）。
- ・ウインターキャンプを開催した（男子）。
- ・Japan Cup にリーグ選抜チームの参加（男女）。
- ・第3回東アジアクラブ選手権（韓国）に参加した。

6) 男子日本リーグを一部10チームに統合した。

7) 競技間連携の推進

- ・日本トップリーグ連携機構主催の審判講習会、新人研修会に参加した。

8) リーグチームオーナー会議の実施。

9) 第31回プレーオフDVD販売を実施。

10. 総務に関する事業

1) 定例の諸会議の開催について、開催場所の選択や人員・規模等を勘案し会議費や日程の効率的運営の推進を図った。

(1) 評議員会 6月10日(東京) 2月3日(東京)

(2) 理事会 6月17日(東京) 11月25日(東京) 2月17日(東京)

(3) 常務理事会 4月8日(東京) 5月13日(東京) 6月17日(東京) 7月8日(東京)
8月27日(広島) 9月9日(東京) 10月14日(東京) 11月25日(東京)
12月24日(名古屋) 1月13日(東京) 2月17日(東京) 3月10日(東京)

(4) 全国理事長会議

10月5日、兵庫県高砂市にて兵庫国体開始式前日に開催。日本協会表彰の後、日本協会の現状、強化対策、普及の現状と課題、日本リーグの現況と将来構想、マーケティング状況・コミュニケーションマークの作成、10万人会などについて日本協会役員より説明があり、活発な質疑応答が行われた。

同会終了後会場を変え懇親会が行われた。

(5) 事務取扱責任者会議 2月18日(東京)

- ・平成19年度の登録業務を主に、日本協会からの説明が行われた。

2) 環境問題

- ・スポーツと環境保全問題について、主要大会において会場にポスターやバナーの掲示をし、環境問題の啓発に努めた。
- ・ハンドボール協会マーク入りのJOC環境バナーを2枚作成した。
- ・クールビズの実施及びチーム・マイナス6%への法人としての参加を検討した。

3) 事務局内のインフラ整備を行った。ASP型グループウェアの導入を行い、役員・事務局員の情報共有化に努力した。

4) 地方協会へメール発信回数を増やし、情報伝達の迅速化に努めた。

11. 「がんばれハンドボール10万人会」サポート会に関する事業

1) 平成18年度サポート会員総数（平成19年3月31日現在）

特別会員	10名
グランド会員	232名
ファミリー会員	106名
ジュニア会員	32名
都道府県ファミリー会員	489名
都道府県グループ会員	4,505名
総数	5,374名

（前年より2,077名増）

2) 推進活動

- (1) 都道府県ファミリー会員・グループ会員入会の促進
- (2) 大会会場における会員の優先席設定

3) 事務局

- (1) 毎月の入会・更新作業
- (2) 打合会の開催・事務処理
- (3) 会員募集パンフレットの増刷

12. マーケティングに関する事業

1) アシックス社とオフィシャルスポンサー契約継続

ナショナルチームへのユニフォーム、シューズ等の物品でも提供を頂いた。

2) 全日本空輸（ANA）社とオフィシャルスポンサー契約継続

協賛金額の増額、ナショナルチームユニホームに「ANA」のロゴマークをつけた。

3) エモック社との協賛契約継続

ナショナル(アンダーを含む)強化活動の遠征旅行代理業務契約を結ぶ。

- 4) 伊藤超短波社と新規にオフィシャルサプライヤー契約を結ぶ
- 5) その他主な協賛について
アジア男子ジュニア選手権大会にてアシックス社、モルテン社から特別協賛を頂く。
ミニミニ社他から協賛を頂く。
- 6) セールスキッドの作成と一部内容変更
日本協会の概要、歴史、ハンドボールの魅力等を網羅した。
- 7) コミュニケーションマーク完成
コミュニケーションマーク使用規程を制定。また今後コミュニケーションマークを使って商品化していくため、商標登録の手続きをおこなった。
- 8) 肖像権関係について
肖像権使用規程の素案を作成。早期制定に向け調整中。
- 9) 各カテゴリーのマーケティングを見直しに向け、検定料、機関誌広告等の担当と推進。
- 10) 日本協会主催大会について、各主管連盟、各協会と連携し大会のマーケティング活動を実施。十分な成果が得られなかったが、今後の課題として活動方法等再検討。